

ニュージーランド オレンジ果汁供給が世界的要因によって圧迫

[FreshPlaza 2024年9月10日](#)

国内東海岸でのサイクロン被害や世界有数のオレンジ生産国であるブラジルの収量の減少などの要因が重なり、ニュージーランドでは全国のスーパーマーケットでオレンジ果汁の不足に直面している。ブラジルの果樹園は干ばつと病害の影響を受けており、その結果、生産量が大幅に減少している。

ニュージーランド柑橘類協会が7月の当初見通しで同国のオレンジ果汁の供給に影響はないと保証していたにもかかわらず、8月には不足が明らかになった。チャーリーズブランドのオレンジ果汁の販売代理店であるベタードリンクス社は、世界的な不足の影響で同社では先月在庫が尽きたことを認めたが、すぐに補充されると予想している。同様に、ホームグロウンジュース社でも不足が生じている。フードスタッフス社は、世界的な不足が同社の店舗に与える影響に注目し、小容量の容器での販売を増やしたり混合果汁の選択肢を提供したりすることで、その緩和に取り組んでいる。ウールワース社は、自社ブランドの果汁を導入することで供給問題に対処している。

この不足は、オレンジ農場経営の財政的継続可能性など、より広範な業界の課題を浮き上がらせている。リビングジュース社のブルース・コベントリー氏は、低価格と厳しい認証要件によって悪化した小規模生産者、特に有機生産者にとっての経済的圧力を指摘した。この状況は、製品の品質が高いにもかかわらず、小規模な生産者が市場で直面している困難を際立たせている。

出典: [RNZ](#) (ニュージーランド国営放送局)

ペルー 課題はあるも農産物輸出が増加

[FreshPlaza 2024年9月10日](#)

ペルーの農産物輸出額は2023年末までに105億4,500万米ドルに達し、農産物輸出部門における世界の主要な供給国としての地位を確立している。農業開発灌漑省 (Midagri) の報告によると、この数字は2024年末までに115億米ドルを超える予想されている。同省の農業貿易スペシャリストであるセザール・ロメロ氏は、課題はあるものの、農業生産者、輸出業者及びペルー政府の協力により、2023年の農産物輸出は前年比で2.9%増加したと述べている。

ペルーの農産物輸出の成功は、農産物輸出全体の74.6%を占める20の主要品目に支えられている。中でも、ブドウ、ブルーベリー、アボカドは主要な輸出品として浮上してきており、それぞれ年間の実績が10億米ドルを超えるか、それに近づいている。特にブドウは、2023年に64万9千トンが輸出され、輸出額は2022年と比較して28%の大幅な増加となった。米国、EU、アジア市場、特に香港と中国がこれらの輸出の主な出荷先である。

ブルーベリーが僅差でこれに続き、2023年の輸出額は16億7,600万米ドルであったが、前年比では24.2%減となった。ただし、この供給量の減少は、国際市場価格の上昇につながった。植物遺伝学の革新により、ペルーはブルーベリーの輸出シーズンを延長し、果実の品質に関する高い国際基準を満たすことができるようになった。米国とEUは、ペルー産ブルーベリーの最大の消費者である。

アボカドも好調で、2023年の輸出額は7.6%増の総額9億6,300万米ドルとなった。EUがペルー産アボカドの最大の市場であり、米国がそれに続く。ペルーの多様な気候と生態系は、年間を通じての生産と地理的な柔軟性を高め、気候の課題を克服することを可能にしている。

さらに、コーヒー、カカオ、マンゴー、アスパラガスなどの品目は、国際市場で引き続き注目を集めている。2023年のペルーの農業セクターの回復力は、その自然の利点と多様な気候を活用し、安定した生産と輸出の成長を確保する能力によるものである。

出展: [Andina](#)